

Yamato Welfare Foundation
ヤマト福祉財団

ヤマトグループ賛助会員向け
ニュース(季刊)
発行部数12万部・非売品

2016.10.20 Autumn

No.

52

NEWS



2016年度障がい者の働く場パワーアップフォーラム

**経済的自立力を備えた
新しい福祉を目指して**



障害者差別禁止と 合理的配慮の 提供にあたって

Profile

埼玉県立大学保健医療福祉学部社会福祉子ども学科教授。障がい者の職業リハビリテーション、就業支援等が専門。福祉施設と一般企業での就労をいかに結びつけていくか等についての研究活動を行い、単に就労移行支援にとどまらず、障がいのある人の尊厳ある働き方を追究している。埼玉県自立支援協議会会長、日本職業リハビリテーション学会会長。ヤマト福祉財団では福祉助成金および障がいのある大学生に対する奨学金の選考委員会委員長。

本年4月から障害者差別解消法が施行されました。まさに、障害の有無にかかわらず共生する社会を創造していくための枠組みができたと言えます。同時に、障害のある人、ない人いずれもが「障害」に対する意識を変革することが重要になってきます。ヤマト福祉財団様の障がい者福祉助成事業等の地道な取り組みは、両者の意識を変革する大きな力になっていると思います。

さて、私の勤務先の大学でも障害のある学生に対する差別禁止と合理的配慮の提供についての取り組みが推進されています。差別の禁止はあまりにも当然のことです。保健医療福祉分野の人材育成を担う本学にとっては、さらにその取り組みを徹底していく必要があります。そして、この考え方は、在籍する学生に留まらず、これから大学進学を目指す障害のある受験生についても同様です。

そこで、多くの大学では障害のある受験生に対して、入学前の事前相談を行っています。その際大事なことは、入学試験における配慮と、入学後の学習や学生生活に関する配慮についての相談は明確に分けることです。入口の段階で、例えば、「大学には障害に配慮した設備が不十分」「支援体制が確保できない」「あるいは、大学外での実習は、受け入れ先の理解が得られない」「資格を取得できても就職は難しい」となると、結果的に、障害のある受験生に、その大学（分野）で学ぶことをあきらめさせることになるからです。

肝心の相談の結果が障壁になるのでは、国連の障害者権利条約にもうたわれている、障害のある人の権利の行使を妨げることになってしまいます。「事前の相談は入学試験を受ける上での配慮事項についてのみにすべき」と、主張したのは、本学の初代の社会福祉学科長で、『第8回ヤマト福祉財団小倉昌男賞特別賞』を受賞した故丸山一郎先生でした。その上で、「障害のある学生が入学したならば、大学が最大限、必要な配慮を行うのは当たり前なこと」と強調されました。私もその考え方を継承し大切にしています。障害のある受験生が「障害があっても大丈夫だろうか」、大学側が「教育は可能だが、その後の就職等は責任を持ってない」といった制約的な観念に縛られることなく、「障害があっても大学で学ぶことは当然」という意識に立って、どう可能性を広げていけるのかを検討し合うことが、真の差別解消の取り組みであるのです。

CONTENTS

表紙写真

『森のこびと』(長野県東筑摩郡朝日村)の利用者さんに収穫の手ほどきを受けるヤマト運輸労働組合松本支部の鳥羽明彦支部執行委員長

- | | |
|---|---|
| <p>03 2016年度障がい者の働く場パワーアップフォーラム
経済的自立力を備えた新しい福祉を目指して</p> <p>08 この街で、一緒に生きていく。障がい者のクロネコDM便配達事業
仕事の楽しさを覚えながら一步一步、社会の中へ。</p> <p>10 【夢へのかけ橋実践塾】 楠元塾修了式・新塾研修会
ここがゴールではない
利用者さんのために、次の目標を掲げて再出発</p> | <p>12 SDさんの足元を快適に
靴クリーンで、障がいのある方の仕事を拡大</p> <p>14 奨学生レポート Vol.10
旅が好き——。
そこからユニバーサルな社会を描く勉強中。</p> <p>16 助成先レポートVol.27
(NPO法人レスパイトケアはちもり「森のこびと」長野県東筑摩郡朝日村)
あえて名産品で勝負をしない農業。</p> |
|---|---|

2016年度障がい者の働く場パワーアップフォーラム

経済的自立力を備えた 新しい福祉を目指して

今年はサブテーマを設け、4会場で開催

本年度のパワーアップフォーラムは、盛岡、福岡、大阪、東京の4会場で開催しました。「経済的自立力を備えた新しい福祉を目指して」をベースに、今年は会場ごとにサブテーマを設けて、より深く学び考えることができます。

盛岡会場・7月1日 アイーナ
「地域と連動した
6次産業化の取り組み」



福岡会場・7月15日 エルガーラホール
「地域密着型の仕事づくり」



大阪会場・7月22日 大阪国際会議場
「重い障がいのある人の
働く場づくり」



東京会場・7月29日 全社協 灘尾ホール
「就労継続支援A型
事業所の未来」



全社員が経営者の視点で見つめれば お客様の声は 「宝の山」になる

例年より一足早く厳しい夏の暑さが到来した7月、盛岡（7月1日）、福岡（7月15日）、大阪（7月22日）、東京（7月29日）の順でパワーアップフォーラムを開催しました。今年は、共通テーマ「経済的自立力を備えた新しい福祉を目指して」に加え、会場ごとにサブテーマも設け、さまざまな視点から講師が講演しています。

最初に登壇した瀬戸理事長は「クロネコヤマトの満足創造経営」と題し、後3年で100周年を迎えるヤマト運輸（株）がこれまでに歩んできた歴史やビジネス展開について講演しました。いまや全国の家で気軽に愛用される「クロネコヤマトの宅急便」ですが、さまざまな問題を独自の経営発想や社員教育方法などで解決しながら、事業イノベーションを繰り返して今日に至っています。

「かつて私が大型団地のあるエリアを担当した際、受取人不在が多く配達の手間になることで悩みました。このままでは効率が悪いと、駅で人の動きをリサーチ。すると午前9時までに人の波が終り、それ以降は大半が不在になると気づいたのです。早速、通勤前に配達できる勤務体制にし、不在配達の問題を解決できました」。

現場とお客様の声に耳を傾ければ、いろいろなことが見えてくると瀬戸理事長。

「一方、ビジネス街のお客様のご要望に応えるにはどうしたらよいかも考えました。オフィスは午前9時～11時に配達し、午後4時～6時に集荷するのが理想的です。この二つの時間帯でパートさんを募集し、人員を増やして



「ディーセント・ワークの実現には合理的配慮も必要」ときょうされんの藤井専務理事



「事業所経営の参考に」と瀬戸理事長がヤマト運輸（株）の事業展開などを講演



シンポジウムでは、会場ごとのサブテーマに沿って講演者たちが自ら進める具体的な取り組みを紹介。今後の指針となる事例を示すとともに、それぞれの考え方を伝えました

サービスの充実と効率アップを目指しました」。

他にもドライバーがお客様への配達に専念できるように、荷物の積み込みを他の社員が行うアシストシステムも確立しています。しかし、いくら体制を変えても社員が変わらないとなにも動き出さない、現場力が大事だと瀬戸理事長は話します。

「お客様と正面から向き合って一生懸命に仕事をすると、感動が生まれます。その感動を共有することで、社員と会社の成長につなげたいと考えました。新たなサービス向上も仕事の合理化も、すべてはお客様の声の中にヒントがあります。」

全社員が経営者としての視点でお客様の声に耳を傾ければ、お客様の声は宝の山へと変わっていきます。これは企業でも福祉施設でも同じことが言えるはずだと会場に呼びかけました。

障がいのある方が、社会で認められ自立していくために 必要なことは

時流講座では、きょうされんの藤井克徳専務理事が「障がいのある人のディーセント・ワーク」と題し、障がいのある方の働く権利を守り、さらに働く喜びを広げるために、いま福祉施設が果たすべき役割について講演しました。

ディーセント・ワークとは、尊厳ある、人間らしい、働きたいのある労働という意味ですが、その中には労働で得られる対価＝給料も含まれます。

「現在、障がいのある方の年収は、約61%が100万円以下と言われています。これで満足な生活ができるのでしょうか。より高い給料を一般企業を希望しても就職できる方

は極一握りであり、多くの方の暮らしは、福祉施設の手にゆだねられています。さきほど瀬戸理事長がお話しされた企業のノウハウなどを取り入れることで、より収益の高い事業へと改善することも可能だと思います。大切なのは、障がいの重い軽いに関わらず利用者さんみんなに十分な仕事を提供できているかどうかです」。

藤井氏は、障害者権利条約にある三つの支援の意味を三段重ねの重箱のイラストを使って説明し、利用者さんの働く場と支援の改善を呼びかけています。

「一段目の箱は、ユニバーサルデザイン、二段目の箱は障がいのある方すべてに共通する支援、一番上の三段目の箱は一人ひとりに合わせた、合理的配慮」と呼ばれる支援です。この合理的配慮ができていないか、自身の施設の仕事中に置き換えてみましょう。障がいの重い方が、他の利用者さんと同じように仕事ができるように、治具などを整えていますか。能力向上の訓練を行っていますか。ディーセント・ワークは、すべての人に等しく与えられるべき権利です。福祉的支援と就労支援を同時に行うのは大変ですが、だれの幸せを実現するための福祉施設なのかを見つめ直して頑張ってください」と伝えました。

会場ごとにサブテーマを設定し講演 福祉事業所で働く 障がい者も登壇

各会場では、サブテーマに合わせて歴代の小倉昌男賞受賞者をはじめとする3名の特別講師が講演。それぞれが抱える問題点と独自に考えた解決方法、次の目標設定や地域と一体となった新事業などを発表しました。中には「福祉施設の立場では支援できなかった



各会場は、予約段階でほぼ満席に。今後の事業経営や利用者さんへのケアのあり方などを模索する多くの福祉関係者が、熱心に講演に聞き入っていました



初の試みとして、今年は各会場2名の利用者が当事者の声を発表



現場の問題点を解決する糸口をつかみたいと来場者は講演者に次々と質問を投げかけました



4会場共通のメインテーマは「経済的自立力を備えた新しい福祉を目指して」。障がい者の働く場を拡大するために、いまに何が必要かを問いかけました

就職弱者を守るため、いままですべて築き上げてきたことをすべて後輩に託し、借金をして起業の道を選んだ」と話す講演者もあり、来場者は自らの状況と置き換え、その行動力と着眼点に感心することしきりでした。

また本年度は、新たな試みとして各地域の事業所で働く利用者さん2名が登壇し「当事者の声」を発表しました。事業所に通う前と通所するようになってからの健康状態や生活の変化。仕事に就き給料を手にして実感した働く喜び、いまの目標などを来場者に伝えました。

先輩方の失敗・成功談を 参考にして ぜひ勝ち戦をおさめてほしい

シンポジウムでは、現場最前線での取り組みなどをお話いただいた講演者がシンポジストとして再登場。藤井氏が司会役となり、各会場ごとのサブテーマに対し、今後どう取り組むべきか、細かく各人の意見を引き出しています。

シンポジストへの質問タイムでは「利用者さんの職業訓練ではどの点を配慮すべきか」「B型事業所として進む上での課題とは」「今日学んだことを事業所の職員にどう伝えれば理解してもらえるのか」など、来場者が日頃から抱えている疑問や悩みをシンポジストに問いつけました。

最後に瀬戸理事長は「みなさんは利用者さんのために、負け戦をするわけにはいかないと思います。今日伺った先輩方の失敗・成功談は、勝ち戦をおさめる重要なヒントになるはずですよ。しっかりと事業所に持ち帰り、将来のためにぜひ役立ててください」とエールを送りました。



農業や6次産業の経験はないが、事業改革の参考にしたいと、多くの方が会場に集いました

(社福)はらから福祉会
理事長 武田 元 氏

第3回ヤマト福祉財団賞



(NPO)ピアファーム
理事長 林 博文 氏

第16回ヤマト福祉財団
小倉昌男賞



(社福)こころん
常務理事
施設長 熊田 芳江 氏

第14回ヤマト福祉財団
小倉昌男賞



地域の農家や企業とネットワーク 1次から6次産業まで 利用さんの仕事に

「地域と連動した6次産業化の取り組みが盛岡会場のサブテーマです。(社福)はらから福祉会の武田理事長は、製造環境を整え品質と生産性を高めてきました。「よい物をつくれるようになったら次の課題は売り方、地元企業との提携です。うちは、宮城県が実施する衛生基準・宮城HACCPをクリアし、食品加工のプロも納得できるクリーンな製造環境を整えることで、より高い価格で企業と契約を結び、牛タンの年間売上を2億円以上にできました」。

(NPO)ピアファームの林理事長も「販売あつての農業を強調。農業の高い技術があり、美味しい野菜や果物を栽培しても売り方がまらずいと経営は成立しません。うちは、複数の直売所やスーパーを街中などで運営し売上を伸ばしています。大事な必要とする方に必要な物を販売すること。お客様にはお寄りも多く、福祉施設ならではの視点で行う私たちのサービスはリピーター拡大につながっています」。

当事者の声



(社福)ひまわり会
小野寺 初美さん

4歳の時に脳性麻痺と診断された私は、父のつくった事業所に通っています。いまの私の支えは、仕事と趣味。仕事を頑張る、稼いだ給料で趣味の買い物をするのが楽しみです。



(NPO)コーヒータム
志賀 千鶴さん

私の担当は、喫茶店での接客、カウンター業務など。「美味しかったよ、また来るからね」という言葉を聞くと、私も人の役に立っていると嬉しくなります。

化のアイデアは、福祉施設や地域の方とのネットワークを築き、互いの特長を理解することで、いろいろな広がります。大事なのは顧客ニーズを捉え、自分たちのこだわりを固執しないこと。農業による6次産業は、企業主導の下請け仕事よりも自分たちの意志を反映でき、やり甲斐があります」と伝えました。

※HACCP(ハサップ)とは…食品の製造工程において製品の安全を確保する衛生管理手法です。



シンポジウムでは、地域と一体となり売上拡大を目指すための方法も意見交換しました

(社福)キャンパスの会
理事長 楠元 洋子 氏

第13回ヤマト福祉財団
小倉昌男賞



(社福)ひびき福祉会
理事長 亀井 勝 氏

第7回ヤマト福祉財団
小倉昌男賞



(社福)キリスト者奉仕会
大牟田恵愛園
施設長 叶 義文 氏



地域の方や企業とつながることで 双方にメリットある 事業アイデアも生まれる

「地域密着型の仕事づくり」のサブテーマで講演の口火を切ったのは、高齢者への配食サービスなど地域のニーズを捉え利用者さんの仕事を拡大している(社福)キャンパスの会の楠元理事長です。「都城では、ふるさと納税者に地元の焼酎や宮崎牛などを送っています。そこでお酒の販売免許を取得し、キャンパスの会も参入しました。地域の資源を活かし地元企業と力を合わせて取り組めるふるさと納税は、双方にメリットのある事業だと思います」。

(社福)ひびき福祉会の亀井理事長は「ひびきの理念の一つに、連帯という言葉があります。独りよがりにならない、地域の人たちとしっかり手を結び歩んでいこうという考え方です。自分たちの住む町と人々の生活を見つめていると新しい事業アイデアもひらめいてきます。たとえば高齢者が増えてお墓が荒れてきたという話を耳にした時、お墓掃除の代行サービスというプランも浮かんできました」と話しています。

当事者の声



(社福)キリスト者奉仕会
障害者就労・自立支援センター たんぽぽ
杉本 亮さん

僕の担当は、食べ物の原価計算です。職員会議にも参加し、栄養などを考えて食材を注文します。目指すは、給料アップです。

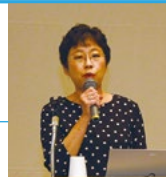
業所の一つたんぽぽは、地域住民が世代を超えてふれあえる地域交流センターとしての機能も担っています。叶施設長は、地元とのつながりを大切に次の事業展開を模索中です。「障がいのある人たちが、地元で暮らしていくための働く場をどうつくれるのか。どれだけ本気になれるか我々にかかっていると思います」。

大阪会場 大阪国際会議場 「重い障がいのある人の働く場づくり」



「利用者さんができることに目を向けよう」。シンポジウムでは職員の指導姿勢も話題にあがりました

(社福)武蔵野千川福祉会
常務理事 **新堂 薫 氏**



第9回ヤマト福祉財団
小倉昌男賞

(社福)はる
常務理事 **西谷 久美子 氏**



第16回ヤマト福祉財団
小倉昌男賞

(社福)よさのうみ福祉会
理事長 **青木 一博 氏**



障がい重いではなく

ニーズの多い方

そう考えると職員にできることも広がる

大阪会場では、重い障がいのある人の働く場づくりをサブテーマにしています。

(社福)武蔵野千川福祉会の新堂常務理事は、一つの作業を複数の動作に分け、多くの利用者さんが作業を担当できるようにしています。「障がい重くても手を動かす、指を動かすことができれば、その動作を作業につなげることができま

す。障がいの重い軽いに関係なく、だれもが生き甲斐を求めています。私たちにできる支援はまだあるはず」と話しました。

「私も障がいの重さに関係なく、その人に合った環境を整えればできる仕事を探せるはずだと考えています」と(社福)はるの西谷常務理事。「当施設では、医師に相談すれば働くのは無理と診断されてしまう重い精神障がいのある方が、18年間も清掃業務に就いています。大切なのは、働きたいという本人の意志とそれを支える周りの環境。利用者さんのニーズをきちんと受け止める答えを出すことが私たちの使命です」。

(社福)よさのうみ福祉会の青木理事長は「利

当事者の声



(社福)コスモス 森のキッチン
松浦 左衣子さん

私は耳が聞こえませんが、お客様にメニューを指差していただき注文を受けます。美味しい料理をたくさん用意していますので、ぜひ食べにきてください。



(社福)かがやき神戸 などでし工房
大坪 真由美さん

私は恵まれています。食べるものにも、着るものにも眠る場所にも困っていません。世界には不幸な人がたくさんいます。感謝の気持ちを決して忘れません。

用者さんにとって良い支援とはなにか。当施設では理想の職員像を全員で討論し、それを目標に職員自身が変わろうとしていきます。障がいのある人たちが自分の希望、特性、能力に応じて働く場を選択する。もし選択に失敗しても再挑戦できる。そんな環境を整えることにこそ、大きな意味があります」と来場者に伝えました。

東京会場 全社協 灘尾ホール 「就労継続支援A型事業所の未来」



東京会場では、7月26日に相模原市で起きた事件の被害者の冥福を祈り、全員で黙祷を捧げました

(一社)ディーセントワールド
代表理事 **天野 貴彦 氏**



第5回ヤマト福祉財団賞

(有)ドアーズ
代表取締役 **柴田 智宏 氏**



第12回ヤマト福祉財団
小倉昌男賞

(社福)進和学園 統括施設長
全Aネット
理事長 **久保寺 一男 氏**



障がいのある方と雇用契約を結び

就労継続支援A型事業所の

課題と可能性を語る

東京会場のサブテーマは「就労継続支援A型事業所の未来」です。A型事業所を運営する者、起業し新たな角度から就労を支える経営者、さらに全国の事業所を結び情報共有を推進する協議会と、それぞれの立場から話をしました。

(一般社団)ディーセントワールドの天野代表理事は、東京都町田市で2店舗のスワンベカリを経営。1号店では新たにチョコレートも商品に加え、給料増額に挑戦しています。「町田市唯一のA型事業所というプレッシャーもありますが、利用者さんはプレイヤー、職員はそれを支えるサポーターという基本姿勢を貫き、新事業を成功させたい」と講演しました。

「障がい者だけではなく高齢者やシングルマザーなど、就労弱者の役に立ちたい」と話すのは(有)ドアーズの柴田代表取締役。ペットフードの製造・流通を行う会社を設立し、従業員としての雇用だけでなく、福祉施設を外注先に加え、地域全体で利用者さんの働く場を広げています。最後に講演した(社福)進和学園統括施設長

当事者の声

(社福)はる バイ焼き茶房
Aさん

精神障がいと診断された時は落ち込むばかりで、家族にもいろいろ迷惑をかけてしまいました。でもいまは、技能職員として働き、毎日がとても充実しています。次は事務関連の正社員を目指し、パソコンの練習もはじめています。



(社福)武蔵野千川福祉会
チャレンジャー
西村 薫さん

仕事はDMの封入封緘です。最初は月給5000円でしたが、いまは10万円。好きなものを買い物でき、今日のためにもスーツも買いました。

で全Aネット理事長の久保寺氏は、来場者に呼びかけました。
「全国のA型事業所にアンケートを取りましたが、集めた数字を見ても問題は山積みです。障がい者と雇用契約を結びA型事業所としてのあるべき姿を全施設の職員が自覚し、目の前の課題に正面から向き合っていくと思います」。

※全Aネット=就労継続支援A型事業所全国協議会

この街で、
一緒に生きていく。



公益財団法人ヤマト福祉財団
障がい者のクロネコDM便配達事業

仕事の楽しさを覚えながら 一步一步、社会の中へ。

山口県山口市朝田、JRR西日本の大蔵駅から徒歩5分の住宅街に障がい福祉サービス事業所「ステップあそかの園」があります。
ひと月約6000冊以上。全国でもトップ10に入る配達量を誇る事業所です。

仕分けは全員で チカラを合わせて

毎朝、事業所に早く到着しているメイトさんから仕分けを開始します。エリア別にDM便を分けた後、パウチした地図に配達先をマーク。その地図を見ながら、職員が配達コースを決めて、配達順に宛名を読み上げます。すると、メイトさんが2〜3人でDM便を探し出して、配達順に並べていくというやり方。最後に職員が再度チェックし、間違いがないかを確認します。

お客さまの大切な品を 届ける責任のある仕事

事業所の近くを配達するのは、下川千里さん。電動自転車です。1日平均約50冊、多い日は約130冊配っています。下川さんは自分のエリアの仕分けから端末登録、投函までを一人で行えるため、職員から信頼されて、すべてを任されています。

「お客さまの大切な品だから、濡らしたりできない。突然の雨には、すぐに雨宿りをして、カバーをかけるように気をつけています」と下川さん。
配達数が多い日は自転車のハンドルが取られそうになることもあるとか。「人の役に立つ仕事をしたいから、もっと広いエリアを配達してみたい」と夢を語ります。



就労支援員の田村政文さん(右)が配達順に読み上げるDM便を、松永萌々恵さん(左)が探し出して手渡します。

● 山口市朝田

● 山口主管支店 山口吉敷センター

面積65.2km²／人口327,481人／
世帯数13,650世帯

● 社会福祉法人同朋福祉会 障がい福祉サービス事業所 「ステップあそかの園」

2012年からクロネコメール便(DM便)配達を開始。1日平均配達数、約200〜300冊。他には、草刈作業、折り込み、ビル清掃、缶バッジ製作など。

「障がい者のクロネコDM便配達事業」

参入施設数 303施設
従事者数 1,502人(2016年8月現在)

お問い合わせは……

(公財)ヤマト福祉財団 DM便担当
TEL 03-3248-0691
FAX 03-3542-5165
<http://www.yamato-fukushi.jp/>

※ 2015年4月1日より、クロネコメール便配達はクロネコDM便配達へと変わりました。



左から／松永萌々恵さん、河村菜々子さん、平岡義彦さん、職員の矢田真由さん。河村さんは「わかることが増えてきたのがうれしい」と楽しそう。平岡さんの夢は「いつかJR九州の豪華列車に乗ってみたい」。



右上／最終確認をする下川千里さん(右)とサービス管理責任者 大隈進さん(左)。右／しっかりと宛名を確認して投函する松永萌々恵さん。絵を描くのが得意です。

**できないと決めつけず
可能性を伸ばす**

下川さんが担当する以外のエリアは、車で職員と2〜3人のメイトさんが配達します。軽自動車でなければすれ違えないほどの狭い道が多く、運転には気を遣うと職員の矢田真由さん。

「なるべく配達先のポストの前で車を停めて、あの赤いポストよ、車に気をつけてと声をかけています。でも、今では自分で注意を払う人が増えてきました」と矢田さんは話します。

同じ名字の人がひとつの地域に多く住んでいるエリアや、二世帯住宅など、同じ名字の2つのポストに投函しなければいけない場合は、特に下の名前の確認を怠らないようにしているそうです。

「私はDM便に関わって半年になります。最初はメイトさんにいろいろ教えられました。これはできないはずと独断で決めつけなくて、一人ひとりの可能性を伸ばしていきたい」と矢田さん。

**適応能力が高い
今後に期待**

ヤマト運輸山口主管支店 山口吉敷支店 矢次康成支店長は「ここはDM便と宅急便が2対1という、DM便の数が多いエリアです。かなり多い冊数をこなしながら、クレームが

ほほならない。今は、特にカタログが増える時期。でも、心配がないのは、本当にすばらしい」と語ります。

ヤマト運輸山口主管支店 三好俊康サービスセンター長は「山口主管では辞めるメイトさんがいて、人数が不足気味です。今後、メイトさんがさらに足りなくなると、サービスレベルが低下してしまう懸念があります。そんな中、こちらのメイトさんたちは対面配達もこなし、適応能力が高いので心強い。もつとスキルを上げれば、ヤマト運輸の他の仕事にも関わってもらえるかもしれないという可能性を感じました。ヤマト運輸のパートナーとしての成功例。いつかもう一歩踏み出す日が来ると思います」と期待を込めました。

**気持ちをサポートしながら
一歩ずつステップアップ**

「ステップあそかの園」サービス管理責任者の大隈進さんは「体調が左右するので、毎日来てくれるかどうか分からない人が多い。元気に通っていたのに、突然来園できなくなる人もいます。言葉でフォローし、気持ちをどうサポートするか。難しいけれど、とても大切だと思っています」と話します。

スタートから約4年。次第に町に溶け込んでいる「ステップあそかの園」のメイトさんたち。責任感を高めながら、毎日、確実にステップアップしています。

前列左から／「ステップあそかの園」職員 矢田真由さん、サービス管理責任者 大隈進さん、就労支援員 田村政文さん、下川千里さん、松永萌々恵さん、ヤマト運輸山口主管支店 三好俊康サービスセンター長 後列左から／ヤマト運輸山口主管支店 山口吉敷支店 矢次康成支店長、ヤマト福祉財団中国支部 土井宏作事務長



「一人できる人を増やして、みんなの工賃を少しでも上げていきたい」と就労支援員 田村政文さん(左)。「下川さんは、一人でやってみたくて自主的に言ってきました。自分の仕事という意識が高い。一般就労につながる前段階の仕事としてDM便は適しています」とサービス管理責任者 大隈進さん(右)。



ここがゴールではない 利用者さんのために、 次の目標を掲げて再出発

「弁当・配食サービスで、利用者さんの仕事の拡大と給料増額」を目標に、楠元塾長と二人三脚で走り続けてきた10人の塾生たち。9月2・3日、2年間の努力と成果を報告する修了式を迎えました。



弁当・配食サービスのプロとしての視点と思考へ、2年間で大きく成長

修了式は、瀬戸理事長の講演からスタートしました。「なにかに困っているお客様の声は、新しい商品をつくる貴重なアイデアになります。一人ひとりと一生懸命に向き合い、これからも頑張ってください」と話しました。

続いて楠元塾の塾生たちが最終成果を報告。最初に発表した塾生は、2014年9月の入塾時には弁当・配食サービスが未経験だった方です。

「約1年かけて新事業を立ち上げ、今年8月には1日120食、6名の利用者さんに7万円を超える給料を支給できました」と発表。「給料増額とともに利用者さんのやる気も高まり、8月はお盆休み返上でみんな頑張りました」と笑顔で発表する塾生もいます。また「盛り付けはもちろん容器もお弁当の個性に合わせて変えることで売上が伸びていま

す」と報告する塾生も。目標の販売数、売上、給料を達成できた人、一歩届かなかった人などさまざまですが、全員が自信を持って2年間の成果を発表しました。

翌日の分科会では、2年間の振り返りではなく、これからの課題を議論。「病院から毎日80食（土日休）の弁当のオフアがきたが、こなせるのか不安」と弱気になった塾生に対し、他の塾生がメリットとデメリットを分析してアドバイス。塾生たちは、2年間で弁当・配食サービスのプロとしての視点・思考が磨かれ、たのしく成長しています。

「今後もPDCA報告は毎月行い、共有合いましょう。1年に一度は、こうして集まりました」と塾生から提案も出ました。楠元塾長は「これからも次の目標を設定し、その達成に向かって進み続けてください。どんな壁にぶつかっても利用者さんのために動くというスタンスさえあれば、必ず乗り越えていきます」と激励の言葉を贈りました。



「全員経営という手法で社員の意識を変えヤマト運輸も変わった」と瀬戸理事長



「今後も福祉施設の強みを活かして、企業にはマネできないサービスを」と楠元塾長

成果が顕著に現れた塾生を表彰

「全員を表彰したいくらい
素晴らしい頑張りでした」



楠元塾長

最優秀賞を受賞したのはCreer。2年間で1日の弁当販売数318個、13名の利用者さんに月額平均給料5万円を支払えるようになりました。

塾長賞は「塾をやめなさい」とまで厳しく叱咤されながら、1日わずか3個の販売数を133個に、1万円の月額平均給料を3万9000円に伸ばしたさくらんぼのお家です。

最優秀賞



Creer 喜多條 雅子さん

これからも利用者さんのために、
職員と一緒に力を合わせていきます。
次の目標は10万円です。

塾長賞



さくらんぼのお家 飯田 香代子さん

本当に夢のかけ橋がかかりました。
覚悟を決めたので、骨折をした時も松葉
杖をつきながら頑張っていました。

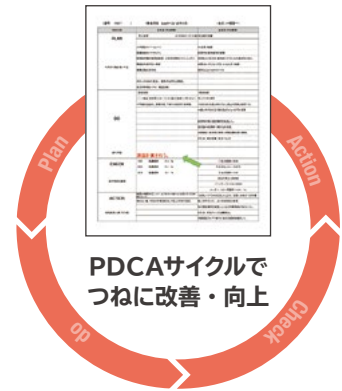
自分がつくりたいものではなく
お客様の求めるメニューを



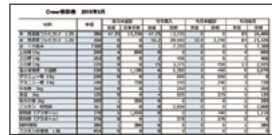
弁当は見た目が大事、
彩りや季節感を工夫



弁当は毎日写真に撮り今後のメニューづくりに活かす



棚卸しを行い
無駄な在庫を持たない



安全・安心がモットー、
衛生管理をつねに徹底



商品力に磨きをかけてきた亀井塾の次の課題は生産力と販売力の向上



熊田塾は、塾生同士で互いにメリットある仕入れ販売を推進



新メンバーも加入、新たに2年間の研修をスタート



新塾は、各塾長の指導のもとで
三つの塾に分かれて目標達成へ
修了式には、2年間の研修の振り返り地点
に立った新塾の塾生たちも参加。1年間3人
の塾長よりさまざまなノウハウを吸収してき
ましたが、今後は亀井塾・熊田塾・新堂塾の
3塾に分かれ、各塾長より具体的な指導を仰
ぎます。

農業で給料増額を目指す熊田塾は、1年間で築いてきた塾生間、地域の方とのネットワークを活かし、熊田塾のオリジナルブランドを立ち上げることを決定。他の塾生がつくる農作物や商品を仕入れ販売し成果を上げている塾生もあり、全員が売上拡大を図る弾みの一つになればと、熊田塾長も期待しています。

新堂塾長のもとには、新たに9名の塾生が加入。昨年から新塾の塾生として研修を開始していた2名も含め、全員でこの9月から2年間の研修を行うことになりました。

研修会では、新堂塾のアドバイザーである東京学芸大学の菅野敦教授による講義も開講。新堂塾の塾生だけではなく全塾生に、利用者さんの働く力を伸ばすために職員が果たすべき点を講義いただいています。



SDさんの足元を快適に

靴クリーニングで、 障がいのある方の仕事を拡大



一足一足のSDシューズを清潔で快適に。障がいのある方がチーム体制で洗浄・乾燥・磨き・補色・縫製・ワックスがけを効率的に行います



ヤマト自立センター
常務理事 瀧澤 正一 氏

グループ内のSDシューズで
クリーニング&メンテナンスを展開
いま作業靴市場は、製造業・食品加工・警
備業・建築業・運送業を合わせると約36
00万人とわれています。「障がいのある方
の雇用拡大に、新たな仕事を創出したい」と考
えるヤマト自立センターは、この市場に注目。
ヤマトグループ内のSDさんのシューズをはじ
めとする「作業靴のクリーニング&メンテナ
ンス(以下C&M)」の事業化をヤマトグループに
対して提案しました。

SDシューズのクリーニングは、約8年前に
ヤマト自立センターのスワン工舎新座で靴専
用のオゾン乾燥機を導入し、すでに着手して
いました。2013年10月に羽田クロノゲート
内に開設したスワン工舎羽田へ機材を移動
し、作業靴のC&Mの本格的な取り組みを開

Step.3 磨く

Step.2

乾燥

Step.1 洗浄



傷の部分をヤスリで補修



消臭・殺菌も行える
靴乾燥機をもう1台増設予定



空気圧で水を飛ばし乾燥機へ



一足一足丁寧に汚れを落とす



定期的に回収したSDシューズに、
一足一足札付け



SDシューズの
クリーニング&
メンテナンスの流れ

始。せっかくつくり上げたノウハウをもっと活かすことはできないか、障がいのある方の雇用拡大のビジネスモデルになるのではないかと計画しました。

ヤマト自立センターの瀧澤正一常務理事は「障がいのある方の雇用を広げたいが、本業や事務などの仕事を切り出すやり方だと、いずれ頭打ちとなります。新たな仕事を創出しなければ、雇用拡大も待遇改善も難しいと思います。これはどの企業も抱えている共通の悩みです。作業靴のC&M事業の成長性を示すことで、解決の糸口を広げていきたい」と話しています。

誰にも使いやすいく生産性が高い 専門の道具や機械を手づくりで用意

スワン工舎羽田のクリーニング室には、SDさんが日々の業務で頑張って使用されてきたSDシューズが、いくつも届いていました。

「SDさんには2足のSDシューズをマイシューズとして貸与し、1ヵ月に一度C&Mに出して交互に使用していただくことで、つねに足元をきれいな状態に保つことができます」と管理者の天津武士さん。SDシューズのC&

Mを開始したきっかけの一つは、配達先のお客様よりSDさんの足の臭いが気になるとの声が届いたことでした。それもオゾン乾燥機による除菌消臭効果で解決できます。オゾン乾燥機で、水虫の菌(白癬菌)などの雑菌を死滅できれば大きなセールスポイントになると検証も進めています。

クリーニング室の靴クリーニング専用電動ブラシ機やワックス掛け機はすべて職員の手づくりです。しつこい靴の汚れ落としに適し、効率的に誰もが簡単に使いこなせる機械が市販品になかったため、試行錯誤しながら開発しました。これらのツールは、靴クリーニングに関わる利用者さんの意見を反映して、現在も改良中です。

スワン工舎羽田では、クリーニングから、傷ついた靴の補色や縫製を行うメンテナンスまで一足一足丁寧に手作業します。特に縫製は、2本の糸で交互に手縫いすることで、ミシン縫い以上の強度に仕上げます。こうした縫製技術の訓練もしっかりとサポート。利用者さんがC&Mの主役として活躍する準備を進めています。

「今回の調査により、約半年で1足のシュー

ズを履き潰していることがわかりました。傷みが進む前にここでメンテナンスすれば、もっと長持ちし、経費削減にもなります。SDさんも一つの汚れた靴をずっと履き続けるより、C&Mできれいになった靴をマイシューズとしてローテーションしながら履き続ける方が気持ちよく働けます。SDさん、会社、障がい者さんのみんなにメリットが生まれるSDシューズのC&Mを、全国展開できたら素晴らしいですね」と瀧澤常務理事は話しています。

ヤマト運輸(株) 渡邊一樹 人事戦略部長から 一言いただきました。

SDシューズのメンテナンスという今まで無かった分野のサービスをゼロから作り出し、新たな事業として立ち上げようとするところは非常にすばらしく、関心が寄せられる部分であると思います。SDシューズの汚れや傷みは、お客様に対するヤマトのイメージの低下につながる可能性もあり、そうした部分を補完しながらも、かつ、障がいをお持ちの方々の雇用の機会を創出するという新たな取り組みは、オールヤマトとして取り組むべき大きなチャレンジであると言えます。スワン工舎のクリーニング&メンテナンスで磨き上げられたSDシューズでたくさんのSDがお客様に笑顔をお届けできるよう、ヤマト運輸としてもこのモデルの事業化の実現に向けて支援してまいります。

社会福祉法人 ヤマト自立センター スワン工舎羽田

障がい者の自立と社会参加を目的にするヤマト自立センターは、新座と羽田でスワン工舎を運営しています。ランドリー事業を柱にしたスワン工舎羽田では、制服や作業着、作業靴やヘルメット、着ぐるみの洗浄など、幅広い商品に対応。利用者さんは就労に必要な知識や技術をここで習得します。職員は就労先を開拓し、利用者さんの就職達成に結びつけるとともに、就労後の定着支援と総合的なサポートを行っています。



Step.6 仕上げ



最後に新しい靴紐を通して完成

Step.5 縫製



ワックスがけ専用の機械も手づくりで用意



手作りのワックスがけ機械でピカピカに

Step.4 補色



長持ちするように手縫いで縫製



専用の塗料で美しく補色する



私たちの賛助会費が活かされています

奨学生レポート vol.10

学ぶことがうれしいから、
実現したい夢があるから…。
理想に向かって、
大学という場で研鑽を積んでいる
奨学生の皆さんを
キャンパスに訪ねます。



藤田 裕大^{ゆう だい}さん

城西国際大学
観光学部ウェルネスツーリズム学科2年

出生後すぐに脳室周囲白質軟化症と診断。体幹機能障害で自立歩行は困難ながら、小中高は普通学級を卒業。書字にも負担は大きいですが、手書きの小論文と面接でAO入試を突破。現在は資格取得や語学の習得にも励んでいる。

障がい者奨学金制度

障がいを乗り越えて社会で活躍する日を目指し、勉学に励んでいる大学生の方に月額5万円(返済不要)を助成しています。

旅が好き——。 そこからユニバーサルな社会を描く勉強中。

幼いころの体験が源泉に

千葉の一大観光エリア・南房総。太平洋を一望するキャンパスに藤田裕大さんを訪ねたのは夏の盛りのことです。小中高校を都内の公立校で学んだ彼は進学を機に、大学のある鴨川市に越してきました。

10代前半から、高校卒業後も何か学びたいと考えていた藤田さん。両親や東京大学先端研が主宰し障がい高校生の大学進学を支援している〈DO-IT Japan〉などにも相談して入念に準備し、大学受験に挑みました。この大学を第一志望にしたのは、観光学への関心が次第に膨らんでいたから。

「2歳のころから南大阪療育園に母子入園をしたり、手術のために長期入院することがありました。手術後も経過観察を兼ねて3カ月に1度はリハビリ入院で大阪を訪れました。そんなわけで、新幹線に乗って移動したり、長期宿泊の経験をしているうちに旅行が自然と好きになって、トラベルプランナーとかになりたいなと思いついたんです」

また、ご両親も旅好きで、いろいろなところへ連れていってくれました。こうした思い出の数々が、彼を観光学へと誘ったのです。

旅とバリアフリーを思う日々

エコツーリズムや医療ツーリズムなども含め、現在は観光について多角的な視点から学んでいるという藤田さん。大学は実践的な学習に力を入れており、1年次にはマレーシアへの海外研修にも参加しました。リゾートホテルのバックヤードを垣間見る経験も現地では得ました。

「今度、学校で行く予定の国内旅行研修に参加予定ですが、そこでもユニバーサルツーリズム



路線バスとして安房鴨川駅から城西国際大学を走る鴨川日東バス。藤田さんの乗降は、一般の乗客の一番最後。乗り降りにはドライバーさんがいつもサポートしてくださるそうです



観光学部と同級生と情報交換。藤田さんのスーツ姿にビックリしていました



取材日はエコツーリズムのレポート提出日でした。岩本英和助教に手渡す藤田さん



車椅子の藤田さんに見えるように大学も配慮し、掲示物を低い位置に貼り出しています

ムをテーマに、という話が持ち上がったみたいです」
同キャンパスに通う学生で障がいがあるのは彼ただ一人。障がい学生第1号です。
町並みに古い名残が見られる鴨川は歩道が狭く、電動車椅子では車道側に脱輪してしまうこともしばしば。最初は怖い思いもしましたが「今は慣れました」と笑います。「大学側も『授業の面でも、対応できるころはします』とおっしゃってくれて心強いです。またバス会社の配慮にも本当に感動しました」
大学からの相談を受けた地元の鴨川日東バ

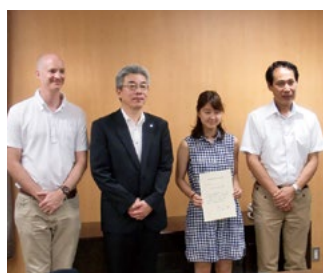
スは二つ返事で、藤田さんの通学路線を全車、ユニバーサルデザイン車に変更してくださったそうです。
旅する楽しみを誰にでも
資格取得の勉強や語学のレッスンなどでプライベートも忙しい藤田さんですが、この夏、友だちと一大プロジェクトを成功させました。日本の渚百選にも名を連ねる、市内の前原海岸に砂浜用の特殊な車椅子を設置する計画です。「鴨川チャレンジ」と銘打ち、必要な資金

をクラウドファンディングで募りました。結果は見事、目標の50万円をクリア。8月1日には市役所に赴き、寄贈式も済ませました。
「ユニバーサルツーリズムを推進していきたいので、さらに勉強を進めて、全国に点在するバリアフリーツーリズムセンターなども訪問し、その裾野をまずは学内に広げたいです。そして社会へ出たら、誰もが楽しめる旅行を提案していきたいと思っています」
藤田さんの夢には、行く手を阻むバリアはありません。

奨学生のキャンパスにお伺いして贈呈式を行いました



池田ブライアン雅貴さん
慶應義塾大学 総合政策学部総合政策学科



名取絵里さん
龍谷大学 国際文化学部国際文化学科



油田優衣さん
京都大学 教育学部教育学科



坂井法仁さん
九州大学 理学部物理学科

あえて名産品で勝負をしない農業。

「ここで過ごしたいという意志があれば、拒否しない」をモットーに、15年前に発足した〈レスパイトケアはちもり〉。現在は生活介護、放課後デイサービス、相談支援事業、そして就労支援B型事業所〈森のこびと〉を展開し、地域に欠かせない存在になっています。

Data

NPO法人レスパイトケアはちもり
「森のこびと」
長野県東筑摩郡朝日村



①⑦『森のこびと』が大好きで、仕事を楽しんでいる利用者さん ②果肉が厚くて、甘味が強いミニトマト『アイコ』は、価格も高く売れる ③朝どれ野菜をすぐに包装。新鮮なまま販売します ④助成金で整備したビニールハウスの前で集合していただきました ⑤農業を始めたのは、たまたま土地を貸してくれる人がいたから。経験もなし専門家もなし。「だいたい独学です」と大和 章理事長 ⑥森のこびとがある朝日村。北アルプスが見えるレタス畑が広がります ⑧近くのファーマーズガーデンで品出しを行う利用者さん

村で最初の作業所

「こっちは人は、いよいよハウスが危ないとなったら、ビニールを破るんですよね。それを知らなくてね…。いただいたばかりだったから、もう情けなくてね」

2年前の2月、全国的な大雪で、雪崩や停電、孤立化を各地で引き起こした平成26年豪雪を振り返るのは、理事長の大和章さん。当財団の助成金を得て、灌水装置付きのビニールハウス3棟を新設したばかりの出来事でした。雪害でフレームまで損傷したハウスでしたが、その後さまざまな人の助けもあって秋には復活。今も森のこびとの農作業では大きな役割を担っています。

木曾義仲にまつわる伝説も残る朝日村は、長野県のほぼ中央に位置し、標高はおよそ800m。昼夜の寒暖差を生かした高原野菜の栽培が盛んな土地です。

知的障がいのお子さんを持つ大和理事長は、お子さんが小学校に上がる前、落ち着いて子育てができる環境を求めて、東京から移り住んできました。お子さんが養護学校を卒業する15年ほど前、村には一つの作業所もありませんでした。

そこで村と掛け合って、初めて立ち上げた作業所が「森のこびと」のルーツです。パンやクッキーの製造、くるみ細工などの工芸品製造、資源物の回収、そして野菜の生産販売といった仕事を、創設以来ずっと利用者に提供してきました。

地域ニーズをしっかりと掴む

〈森のこびと〉は育てた野菜を、直売所と道の駅を中心に、他にも近くにある工場や大学などで販売しています。訪れたときに栽培さ



6

れていたのは13aに、カボチャにコリンキー、ニラやトマト、ナスにピーマン、サツマイモ、中国野菜など20品種ほど。

朝日村は高原野菜の名産地ということで、周囲の農家は、レタスなどを大量に生産し、JAや都会の消費地に出荷しています。しかし、〈森のこびと〉はまったく違います。

自分たちは農業の素人だからと説明しつつ、大和理事長はこどもも補足してくれました。

「近隣の農家さんは、JAへ出荷する際に、重さが合わないとか、形が合わないなど規格に合わない野菜を『格外品』として直売所に出すんですよ。彼らはレタス一個50円なんて値段で並べることもあるから、そうすると価格の対抗できないんです。そんなわけで、み



8

7

労働組合支部執行委員長 助成先訪問 Series 22

ヤマト運輸労働組合
松本支部執行委員長
鳥羽 明彦 さん



働く場を求める気持ちは 障がいのあるなしに関わらない

障がい者が「働ける場がもっとほしい」という言葉を、理事長さんから伺いました。

松本支部でも、法定雇用率に達する数の障がい者の方がすでに働いています。ただ、安全性の観点から、クールボックスの洗浄やバルコン流しなど、ある程度、職域が限られています。もう少ししなにか改善できないか？ 今回の訪問でそんな思いを抱きました。

一方で、「夏のカンパ」は、すっかり松本支部に浸透したと実感しています。今年も支部では約900名から90万円以上のカンパをいただきました。この勢いを今後も続けていきたいと思っています。



苦境にも粘り強く前を向く

じつはこれまで借りていた農地を返した関係でここ数年は苦しい状況にあります。が、ビ

んなが作らないもの、この辺のJAに納めていないようなものを選んで作っています」。

なるほど、高原野菜に特化した農家の方だつて、食卓がレタスとキャバツのみというわけにはいきません。日常遣いの野菜を他品種少量、安心できる品質で生産販売しているというわけです。

「だから直売所の店員さんも、『森のこびと』の物から売れてくよ」と言ってくれます。どうもコンビニの人も、直売所で仕入れて、お店で売っているみたい」と笑います。

ニールハウスを手に入れたおかげで、冬の仕事を確保。冬季の売上は大幅に上昇して、年間売上の落ち込みを回避することができました。昨年度の給料も、高い人では8万円を超えています。

管理者の池田保由さんは、「生産数をじわじわと増やして『商品不足の機会を減らしていくのが当面の目標』と言います。

一方、理事長は事業をむやみに大きくする気はないとしつつも、入所希望の順番待ちが出ていることを思うと、いろいろと試算している様子。『場合によっては来年、新しい事業所を開設するかもしれない』。

地道に一步步切り拓く。それが〈森のこびと〉の「これまでも、これから」です。

本村製本株式会社／製本業を柱に小ロット対応のオンデマンド印刷も行っています。仕事の品質を高めるため職場環境の整備や仕事の見える化を徹底。社員が考えた優秀な改善アイデアを表彰し全員で共有するなど、オープンで伸びやかな社風の会社です。



「伊藤さん(前列中央)を囲んで写真を撮ろう」花崎部長(前列左)の一言でたくさんの同僚が集合

ハンディターミナル片手にピッキング この仕事大好き!

「倉庫で商品をピッキングする仕事が好き!」と話す伊藤さんは、入社約1年で基本的な作業をすべてマスターしました。いつも元気で明るい彼女の笑顔は、自然に周りの同僚を笑顔にします。

■ヤマト自立センター スワン工舎新座 就労に必要なスキルの習得はもちろん就労先の開拓からジョブコーチによる就労後のサポートまで一貫したプログラムで、障がい者の自立支援に取り組んでいます。

毎日、楽しくて仕方ない彼女の笑顔が周りを元気に

「たとえばCDの付いた教材本など、本社の機械では難しい手作業による製本が、当センターにまわってきます。製本に限らず手作業が必要なさまざまな仕事も受注しています」と本村製本株式会社 物流加工センターの花崎智訓部長。メーカーなどから届く商品の管理・加工・出荷業務も事業の大切な柱です。商品の台紙貼りや値札つけなどの加工作業を行い倉庫で管理。出荷依頼が入ると、ハンディ片手に必要数の商品をピッキングし発送します。

「うちは平均年齢が高く70歳以上の方も働いているので、どんな業務もだれもがわかりやすく、正確に行えるように工夫しています。ピッキングに使うハンディには、商品名・棚番・



商品の種類・個数・管理棚をハンディでチェックしながらピッキング



文庫本などに入れる広告などを手作業で挟み込んでいく

伊藤 恭子さん 本村製本(株)物流加工センター(平成27年8月26日入社)

センターでは、製本以外にも手作業でいろいろな仕事を行います。入社約1年で大半の仕事をごこなせるようになった伊藤さん。6月には他の先輩方と一緒に昇給しました。

伊藤さんは、他のパートの方と同様に週5日、9時から17時まで勤務しています。当センターで障がいのある方を雇用するのは、伊藤さんが初めてでした。最初は、どう接したらよいのかわからずと身構えていましたが、あの笑顔でしよう(笑)。特別な指導をしなくても仕事をできるようになりましたし、すぐに職場に溶け込んでくれました。話すことに夢中になってスピードが遅くなることもありますが、いつも明るい彼女は職場の大切なムードメーカーです。

伊藤さんの給料の使い道は、洋服やゲームなど趣味に関する買い物。休日は友達と遊びにも出かけます。時には妹さんへのお小遣いも家に生活費を入れることも忘れません。「仕事は忙しいけれど楽しくて仕方ない。スワン工舎に顔を出す暇がないくらい」と、飛び切りの笑顔で話してくれました。

数量が表示されますので、それを見るだけで簡単に作業可能です。間違えた時には、ブザーが鳴って教えてくれます」。

伊藤さんは、各種製本や加工作業など、基本的な仕事をすべてこなしていますが「商品ピッキングが一番楽しい」と話します。「陶器を扱うときは、これややすいので気を使います」とニコリ。この笑顔が、周りのみんなに元気を与えてくれていると花崎部長。



「障がいを意識したことはありません。みな同じ働く仲間です」と花崎部長

YWF TOPICS

障がいのある方が幸せになれるように――

ヤマト労連より5288万8000円のご寄付をいただきました
ありがとうございました



ヤマト労連森下会長から贈呈の目録を受け取る瀬戸理事長

9月15・16日にヤマト運輸労働組合第71回定期中央大会が、新潟県南魚沼郡の湯沢カルチャーセンターで開催されました。

大会の中で、ヤマト労連が行う『夏のカンパ』の贈呈式が行われ財団に、5288万8000円のご寄付をいただきました。『夏のカンパ』は、ヤマトグループで働く社員、組合員のカンパニア活動です。

財団の瀬戸理事長は、贈呈に際し、「障がいの自立支援に活かす助成金、障がいのある大学生の奨学金など、賛助会費とともに夏のカンパは、財団の活動に貴重な財源となっています。今年は賛助会員をさらに増やしていきたいと思っていますので、組合のみなさんご協力をお願いいたします。本日は、本当にありがとうございました」とお礼の言葉で締めくくりました。

ラッセラーラッセラー

ヤマト運輸ねぶた実行委員会も協力した青森ふくしねぶた

今年もふくしねぶた観客と「ラッセラー」青森・400人参加

青森ねぶた祭3日目の4日、障害者とボランティアらが一緒に練り歩く恒例の「ふくしねぶた」（青森市社会福祉協議会主催）が出陣した。36回目の今回は青森市や平内町、むつ市などから約400人が参加。沿道の観衆と一体になって祭りを盛り上げた。

「ふくしねぶた」に協力したのはヤマト運輸ねぶた実行委員会。運行前には、ボランティアが作った手のひらサイズの金魚ねぶたが観衆にプレゼントされた。車いすの参加者が「ラッセラー、ラッセラー」と力いっぱい声を張り上げると、観衆がうちわを振ってその熱意に応えた。

青森公立大学のボランティア

「ラッセラー、ラッセラー」と元気の掛け声とともに、うちわを振って練り歩くふくしねぶたの参加者ら＝4日午後7時半ごろ、青森市本町



東奥日報2016年8月5日

ふくしねぶたで瀬戸理事長も一緒にラッセラー
今年はやマト運輸ねぶた実行委員会のねぶた『依藤太と竜神』（作：北村隆氏）が知事賞を受賞しました



拝啓 ルノワール先生 — 梅原龍三郎に息づく師の教え

Bonjour Monsieur Renoir; Renoir et Umehara -Joie de peindre



ビエール=オーギュスト・ルノワール《バラ》
制作年不詳、油彩/カンヴァス、三菱一号館美術館寄託



梅原龍三郎《バラ、ミモザ》制作年不詳、油彩/紙、個人蔵



ビエール=オーギュスト・ルノワール《パリスの審判》
1913-14年、油彩/カンヴァス、公益財団法人ひろしま美術館蔵



梅原龍三郎《パリスの審判》1978年、油彩/カンヴァス、個人蔵

「画壇のライオン」と「印象派の巨匠」

明治21(1888)年、京都の染物問屋に生まれた梅原龍三郎は、日本の洋画界を牽引し、その豪快な性格からも「画壇のライオン」と呼ばれました。

若き梅原が絵を学ぶために渡仏したのは明治41(1908)年、二十歳の時。パリでルノワールの作品に触れ感銘した梅原は、翌年には早速、ルノワールの元を訪れます。以降ルノワールを師と仰ぎ、多くを学ぶとともに親密な関係を築きました。

こうして梅原は、本場で学んだ油彩画に、桃山美術・琳派・南画などの日本の伝統的な美を採り入れ、個性的で豪華絢爛な作品を世に遺していきました。

梅原が紡いだ、東西の美の交流

西洋絵画の模倣ではなく、独自の油彩画として日本洋画を確立した梅原龍三郎の画業を、本展ではこれまであまり公開されなかった作品も含めてご紹介します。また、ルノワール晩年の代表作の一つ《パリスの審判》と、六十数年後にそれを自由闊達な筆致で模写した梅原の《パリスの審判》。この2作品を同時にご覧いただけるユニークな試みも話題です。

二人の作品だけでなく、優れた鑑識眼で「蒐集家」の顔も持っていた梅原龍三郎が愛蔵したルノワール、ピカソ、ルオーらの作品約80点もまとめて展示。近代絵画における東西の交流を感じとることができる展覧会です。

本展の美術品取り扱いにヤマトロジスティクス株式会社は協力しています。

開催期間 ▶ 2016年10月19日(水)～2017年1月9日(月)
休 館 日 ▶ 毎週月曜日(ただし祝日は開館)
年末年始休館 2016年12月29日～2017年1月1日
開催場所 ▶ 三菱一号館美術館
アクセス ▶ JR「東京」駅(丸の内南口)徒歩5分
東京メトロ丸の内線「東京」駅(改札口・地下道直結)徒歩6分
JR「有楽町」駅(国際フォーラム口)徒歩6分
東京メトロ有楽町線「有楽町」駅(D3/D5出口)徒歩6分
東京メトロ千代田線「二重橋前」駅(1番出口)徒歩3分
都営三田線「日比谷」駅(B7出口)徒歩3分
開館時間 ▶ 10:00～18:00
(祝日を除く金曜、第2水曜、10月27日、1月4日～6日は20:00まで)
※入場は閉館の30分前まで

観 覧 料 ▶	一般	大・高校生	中・小学生
当日	1,600円	1,000円	500円
前売	1,400円	設定なし	設定なし

※障がい者手帳をお持ちの方と介添人の方1名まで半額
主 催 ▶ 三菱一号館美術館、朝日新聞社
協 賛 ▶ 大日本印刷
企画協力 ▶ キュレイターズ
問い合わせ先 ▶ 03-5777-8600(ハローダイヤル)
HP <http://mimt.jp/renoirumehara>
巡回情報 ▶ 大阪：あべのハルカス美術館
2017年1月24日(火)～3月26日(日)

大切な人と一緒に、スワンのクリスマスケーキ



フルーツ盛りだくさん
Happy Short
XD ハッピーショート



サンタさんがやってきた
Happy Santa Claus
XA ハッピーサンタクロース



濃厚★贅沢チョコケーキ
Happy Chocolat
XB ハッピーショコラ



大人気の定番
Happy Mont Blanc
XE ハッピーモンブラン



今年もますますおいしくなりました！

お申し込み 11月1日～12月5日
お届け日 12月20日～12月24日
○障がい者施設からもご予約いただけます。
お問い合わせは
(株)スワン 担当：藤野まで
TEL 03(3543)1067
<http://www.swanbakery.co.jp/>

